

回復期リハビリテーション病棟における MSW役割と課題 ～患者・家族の生活問題に向き合う～

中 塚 充紀子

おおくまセントラル病院 (旧おおくまりハビリテーション病院)

Key Words：在宅復帰 自己決定 地域生活

1. はじめに

2012年診療報酬改定により、施設基準の中に、回復期リハビリテーション病棟 (以下回復期リハ病棟) 『専任』としてMSWの設置が組み込まれた。これは、MSWとして、その存在が認知され、活躍の場が広がった大きな一歩である。また、新設された回復期リハ病棟Ⅰの基準において、重症患者の割合・在宅復帰率の基準が上がり、MSWの活躍の場の広がりとともに、その責務は大きなものとなっている。

変革していく医療制度の中で、回復期リハ病棟のMSWの役割とは何かを整理するとともに、今後の課題について考える。

2. ソーシャルワークとMSW

ソーシャルワークは、社会福祉の専門家が行う活動であり、相談援助そして、相談援助に限らない幅広い活動を指す。また、その対象とする範囲も用いる方法も幅広い。それらのソーシャルワークを医療現場で実践しているソーシャルワーカーがMSWである。医療改革・社会福祉基礎構造改革により、転機を迎えたソーシャルワークについて説明する。

3. 当院におけるMSWの役割

病床数240床 (一般病棟112床、回復期リハ病棟128床) 有する当院のMSWの役割を紹介する。回復期リハ病棟においての日々の業務・実践内容・チームにおける役割や病院という組織の中でのMSWについても紹介する。

4. 症例からみるMSWの役割

81歳 男性 慢性炎症性脱髄性多発神経炎を発症した患者の症例を紹介する。回復期リハ病棟において、患者のリハビリへの大きな期待や揺れ動く気持ち、家族の思い、チーム内での意見の相違、既存化した社会資源の限界により方向性が定まらず苦慮した症例を紹介する。症例を通し、回復期リハ病棟のMSWの専門性とは何か、チームにおける役割とは何かについて考える。

5. 回復期リハ病棟のMSWの今後の課題

診療報酬の改定によりMSWの活躍の場は広がりを見せたが、それに伴い責務も重大となった。医療改革が進み、患者本位の医療提供体制の整備が求められ、MSWを配置する医療機関は増えてきている。また、病院経営においても、入院患者の確保や在宅復帰率を保つための退院援助等操作

的な働きを組織は期待している。

しかし、患者・家族の生活問題に積極的にかかわる回復期リハ病棟のMSWは、入院早期より患者・家族と信頼関係を築き、突然の疾病により生じた患者・家族の混乱を受け止め整理し、のぞむ新しい生活の形を作り上げていくための援助を行っていかねばならない。そして、地域において患者・家族が安心して自らの生活を営んでいけるようその地域への働きかけをも行う必要がある。連携なくしては、病院も患者・家族の生活も成り立たない今、日々の実践からみえてくる回復期リハ病棟のMSWの課題について述べる。

【参考文献】

社会福祉士養成講座編集委員会編集

新・社会福祉士養成講座 相談援助の基盤と専門職 第2版

村上 須賀湖子 大垣 京子編集

実戦的医療ソーシャルワーク論 改訂第2版